

ゐのはな同窓会埼玉県支部

伊藤 敏夫

医学部創立135周年記念誌発刊によせて

ご 挨拶

医学部創立135周年お目出度うございます。

この度は記念事業の一環として、新ゐのはな同窓会館設立と共に記念誌発刊もまた後世にゐのはな会の力を示す事業であり、大変意義深く嬉しく思っています。関係各位のご努力に敬意を表すると共に一言ご挨拶申し上げます。

一口に135周年と申しましても、一人一人の会員が連綿とその時、その立場、その方法でゐのはな会を支え続けてこられた本当に気の遠くなるような長い長い歴史の積み重ねの結果であるということに感慨と感謝を覚えます。

不運にも戦争の犠牲となられた多くの先輩方もおられ哀悼の意を表するものです。しかしその戦時を通してなお時を刻み重ねて今日に繋がっているという思いもまた私達の胸を強く打つものです。

ゐのはな会の長い歩みに思いをいたす時、眼前に浮かぶ昔日の若い私達が時を過ごしてきた大学生活、医局時代、ゐのはな会活動はその135年間のひと齣であったとつくづく思い知らされ、ゐのはな会のために何かしなければという気持ちになります。



(写真1) 筆者

記念事業を企画され、ゐのはな同窓会のみならず医学部、大学院、卒後医育医療機関等の活性化と医

道の高揚のため、何年にも渡り熱意とご努力を重ね、新ゐのはな同窓会館設立にこぎつけられましたゐのはな会前会長、現会長を初め、ゐのはな会の関係各位に敬意を表します。同時にまた志を同じくする多くの会員が、医療を取り巻く厳しい状況下にもかかわらず、学内外から同じ旗の下に集まって浄財を拠出され、ひとつの事業を成し遂げられる姿勢にゐのはな会の心強い結び付きをみる思いがします。

多くの先輩には敬意を表し、同輩には親愛を分かち、後輩には将来の希望を託したいという心情が更に強くなってまいります。

埼玉県支部ご紹介

ところで、ゐのはな同窓会埼玉県支部（埼玉ゐのはな会とも称しています）は、全国の会員にとりましては、全くの不案内の方々が大部分だと思えます。そこで私達の支部活動と組織につき皆様方に知っていただけるように改めて紹介させていただきます。

埼玉県支部の歩み

私達の埼玉県支部が具体的な形として活動し始めましたのは、浦和の仲田一信先生（大9卒）の時代からだろうと思えます。約70年程前でしょうか。

先生は日医副会長や県医師会会長を戦前と戦後の2回に渡って務められ、先見性の卓越した人格高潔な大人物という評判の方でした。

やがて事務局は浦和の高田進先生（昭12卒：高田功先生（昭42年卒）のご尊父）宅に置かれ、幹事長は萩原敏秀先生（昭15卒：薬理学教授萩原彌四郎先生（昭23卒）のご実兄）といった錚々たる先輩方の運営で組織として形を整えてまいりました。

その後、上川名誠一先生（昭12卒：松山迪也先生（昭35卒）のご岳父）の時代までは、料亭のお座敷で胡座をかいて支部総会と講演会を、引き続いて芸者を入れての懇親会開催への運びという段取りでした。

主に浦和の花水亭という当時としては格式のある料亭で行われました。やがて時代の流れで料亭も祝・日曜日は休業ということになりましたが、ゐのはな会には日曜日でも格別の配慮をしてくれていました。なお料亭にはスライドやスクリーンの用意は

第4章 同窓の発展

なく、地区医師会から借り出して使っていたという状況でした。

会費は出席者からその都度徴収して、当日の経費に当てておりました。赤字分は役員や関係者が個人的に補填するといった大らかな運営でした。

講師は大学から教授をお招きし、一名は学術講演を一名は主に学内事情のお話をお願いするというのが通例でした。今日でもこの方針は継承されております。

次期の新藤清司先生（昭16卒）が会長の時代には、年会費制の導入が計られ、まあまあ安定した財務運営ができるようになりました。この頃から県内でもホテルがぼちぼちと充実してきました。会場も料亭の畳と芸者からホテルの椅子とコンパニオンへと移っていきました。

会長が千代倉俊夫先生（昭15卒）を経て水間正冬先生（昭17卒）に引き継がれた頃には支部総会・懇親会は、浦和地区と大宮地区で交互に開催されていきました。やがて県東部の幸手地区を代表して吉川広和先生（昭40卒）が、県北部の熊谷地区を代表して冠木徹彦先生（昭40卒）や栃木亮太郎先生（昭40卒）が加わり四地区輪番制となり充実していきました。もっともこの頃は支部総会・懇親会関係のご案内と会計報告は2～3枚のパンフレットを年一回会員に郵送していました。

井上幸万先生（昭27卒）が、平成12年に、会長になられると次々と新機軸が打ち出されました。



(写真2) 創刊号

『埼玉 むのはな』誌創刊

会員の親睦と情報の伝達や交換の場としての会誌発刊に踏み切りました。(写真2)

浦和の伊藤進先生（昭43卒）が編集事務局を引き受けてくれました。実質的な編集長として基礎を築き、安定した軌道に乗せてくれました。その努力に敬意を表します。

内容も、多士済済の会員の多くの玉稿により、会誌は非常に充実し、地区 むのはな会の中でも指折りの会誌ではないかと自負しています。

昨年は、10号出版記念誌となり、本部の会長伊藤晴夫先生（昭39卒）のお辞を掲載させていただきました。

ただ財政が不安定で余裕がなく、 むのはな会本部から複数回に渡り支部活動助成費をいただきました。感謝いたしております。

会員名簿改定発行

約10年振りに改定されました。会員の異動も多く、井上幸万先生が若手を勧誘して約30名増員となり計330名となりました。支部規約も時代に合わせて改定し名簿と共に発行しました。川口の野口哲夫先生（昭48卒）がその任に当たってくれました。

ゴルフ部創設

会員相互の親睦とレクリエーションのためゴルフ部が創設されました。吉川広和先生（昭40卒）を部長とし、林田和也先生（昭52卒）を幹事長として発足し、年1回で5月中旬の開催とし、創部以来1回の中止も中断もなく連続7回開かれています。全て個人の支出で楽しんでいます。(写真3)



(写真3) ゴルフ大会

こうして支部も活性化してきましたと、支部総会・懇親会の出席者も徐々に増えてきました。最近では50名前後の出席者を常に保っています。特に若い先生方の出席は将来に期待を持たせるもので、有り難いことだと思っています。

私、伊藤敏夫（昭30卒）が、平成17年4月に、井上幸万先生より会長を引き継ぎましてからも会員の皆様の協力を得て、盛会が続いております。

特に平成18年は、日医会長に唐澤祥人先生（昭43卒）が就任された年の支部総会で、唐澤先生に「国民医療と日本医師会の取組み」として特別講演をお願いし、県北熊谷市での開催（責任幹事五月女直樹（昭49卒）先生）にもかかわらず、70名近くの会員の出席を得て、会場のホテルでは補助椅子を出さねばならないほどの盛会でした。（写真4）



（写真4） 左から、日医会長・唐澤祥人先生、前支部長・井上幸万先生、筆者

もっとも、この時の総会の折には、当時のものはな同窓会長の渡辺武（昭27卒）先生を初め、近隣都県の支部長会の一環として多くの支部長先生のご出席を得ました。より一層活気に溢れ盛大にして華やかであったのだと思います。（写真5）

更に、支部総会の折りには毎年、会員のうちで米寿、喜寿を迎えられた先生や、叙勲、受賞を受けられた先生をお招き紹介し、支部長からお祝の辞を申し述べて金一封を差し上げ、出席会員全員でお祝い申し上げるよき慣行が続いています。また該当する

先生方にはできるだけ会誌に玉稿をいただき、欠席する会員にも周知するように努めています。

しかし、どこの地区支部も同じ悩みをお持ちでしょうが、当支部も会員減少には困っております。会員が10年前の330名から270名になってしまいました。

若い先生方が新臨床研修医制度の影響で大学に引き上げられてしまったことや、地方への定着が安定しないことも原因でしょう。また会員が高齢化してきて鬼籍に入られる場合も増えています。

今後は国の制度改革と共に、私達の意識の改革や私達のシステム作りが必要だと思っております。本部も色々と動いて下さっておりますが、益々のご努力を期待しています。

本支部の組織

支部長1名、副支部長2名、県内4地区の代表幹事28名、会計1名、監事2名で運営しています。

役員は全員が編集委員を併任しています。年1回の役員会は編集委員会を兼ねています。また年1回の総会には、最近では、学外に出られ独力でご開拓、ご活躍されておられる第一線の先生方にも講演をお願いし、外に出ている方に冷たいと評されてきたものはな会の体質改善に努めています。講師は年1回につき2～3名をお招きしています。

例えば免疫学の多田富雄先生（昭34卒）、ものはな会長渡辺武先生（昭27卒）、現日医会長唐澤祥人先生（昭43卒）等々。

現ものはな会長伊藤晴夫先生（昭39卒）には135周年記念事業のご説明をお願いしました。記念事業の財務委員長の寺澤捷年先生（昭45卒）には2年連続でお招きし、会員に協力をお願いしました。



（写真5） 平成18年度ものはな同窓会 埼玉県支部総会 2006.8.27

第4章 同窓の発展

生坂政臣先生（昭60卒）は埼玉県のご出身で、2年間の予約後お呼びできました。

古い話ですが、筑波大学へ出られ、臓器移植で連日マスコミに社会問題視されたことのある岩崎洋治先生（昭29卒）をお招きし、お話を伺って激励したことを思い出します。

以上のごとく本支部は会員の期待に合わせて、学内外から、教授のみならず、その道を究めた専門の方や時宜に適った方もお招きし、学問や学術だけにこだわらずにゐのはな会の結束を強めています。

本支部の現役員紹介（敬称略）

支 部 長・編集長 伊藤敏夫（昭30卒）

副支部長・田口勝（昭34卒）

同 吉川広和（昭40卒）

会 計・中村勉（昭52卒）

幹 事・東部地区：横田俊二（昭30卒）、今井兆佳（昭32卒）、玉井輝章（昭43卒）、井坂茂夫（昭51卒）

西部地区：松本生（昭36卒）、佐々木望（昭41卒）、門井隆司（昭46卒）、得丸幸夫（昭53卒）

南部地区：井上幸万（昭27卒）、有馬道男（昭29卒）、高橋康（昭30卒）、森碧（昭31卒）、松山迪也（昭35卒）、伊藤進（昭43卒）、諏訪敏一（昭43卒）、済陽高穂（昭45卒）、野口哲夫（昭48卒）、小林亘（昭49卒）、土佐寛順（昭50卒）、菱沼静男（昭51卒）

北部地区：冠木徹彦（昭40卒）、栃木亮太郎（昭40卒）、赤井寿紀（昭43卒）、木村純（昭49卒）、五月女直樹（昭49卒）、小林彰（昭52卒）

監 事・阪信（昭35卒）、林田和也（昭52卒）

編集事務局長：伊藤進（昭43卒）

ゴルフ部：部長・吉川広和（昭40卒）

幹事長・林田和也（昭52卒）

ゐのはな同窓会（本部役員）

以下の先生方をお送りしています。

常任理事・吉川広和（昭40卒）

同 林田和也（昭52卒）

理 事・諏訪敏一（昭43卒）

関連病院

主に以下の施設が拠点となっております。

深谷赤十字病院（院長・諏訪敏一（昭43卒）

日本外科学会評議員，他）

厚生連熊谷総合病院（院長・五月女直樹

（昭49卒），他）

厚生連幸手総合病院（院長・井坂茂夫

（昭51卒），他）

さいたま赤十字病院（胸部外科部長・門山周文

（昭51卒），他）

さいたま市民医療センター（理事長・前県医師会
副会長・阪信（昭35卒），他）

県内の大学病院

埼玉医科大学（埼玉医大医師会長・佐々木望（昭41卒）、循環器内科教授・小宮山伸之（昭58卒），他）

独協医科大学越谷病院（脳神経外科教授・兵頭明夫（昭52卒），他）

防衛医科大学校（産婦人科教授として、永田一郎（昭35卒）、菊池義公（昭41卒）が奉職されていました。他）

自治医科大大宮医療センター

また、本支部に所属され都内や他県でご活躍されておられる先生も多数にのぼります。

県医師会

監 事・土屋與之（昭24卒）

学術部理事・登坂薫（昭50卒）

地区医師会

大宮医師会理事・中村勉（昭52卒），他。

県医師会や地区医師会で活躍される先生方が激減し、ゐのはな会が県医師会や多くの地区医師会を取り仕切っていた昔日の面影は全くありません。寂しい限りです。若い先生方の一層の奮起を期待しているところです。

本部ゐのはな会の活性と発展は、独自色を持っている地区ゐのはな会のそれにも繋がっていくものです。

両者は共に手を携えて私達の医学部を支援し、同窓会の親睦発展に寄与し、優れた研究や立派な治療を絶えず生み出すように医学を引っ張り、医学に寄与するよう支え続けていきたいものです。

今後共、埼玉県支部をよろしくお願い申し上げますと共に、ゐのはな同窓会（本部）の益々の発展を祈念してお祝の辞といたします。

追記：記憶を辿りながら何とか書き上げました。その他にも至らぬ点が多々あるかと存じます。何卒ご容赦のほどお願い申し上げます。

平成22年2月吉日 記

（いとう としお）